

* ゴーチエ子午環の CCD デュアー收藏

アーカイブ室新聞 144 号 (2009 年 3 月 3 日) に「ゴーチエ子午環の CCD」という記事を書いた。その時は、ゴーチエ子午環で使われた CCD の收藏であったが、今回はその CCD が観測に使われた CCD デュアーの收藏である。ゴーチエ子午環は 1903 年にフランスで製作され、1904 年 (明治 37 年) に日本に到着している。我が国初の子午環は、1880 年 (明治 13 年) に海軍観象台が購入したメルツ・レプソルド子午環であったが、1923 年 (大正 12 年) の関東大震災の際、転落し大破した。ゴーチエ子午環は大震災前に日本に到着していたが、当時東京天文台があった麻布飯倉の敷地が狭隘であったため展開することが出来ず、梱包状態であったため大震災の難を免れ、震災後三鷹に本格的に移転した東京天文台に、1924 年 (大正 13 年) 建設された子午環室で展開され、1926 年 (大正 15 年) から観測を始めた。このゴーチエ子午環は、1982 年に建設されたドイツ・ツァイス製の新しい自動光電子子午環 (PMC) にその役割を引き継いだ。その後 CCD カメラを装着してクエーサーの精密位置観測に用いられた時代があった。今回、收藏した CCD デュアーはその時の CCD カメラである。マイクロメータを使った眼視観測の様子、CCD カメラをつけた様子が写真 1、2 である。

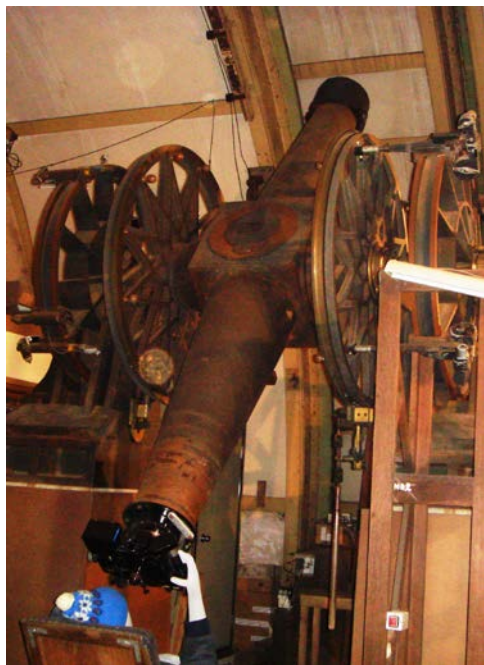


写真 1



写真 2

写真 2 では、CCD カメラの後ろに観測者に模した人形が座っているが、観測は子午環ドーム内に設置された計算機室から行われ、このように観測者が焦点部にいることはない。これらの写真を撮影したのは、ゴーチエ子午環による観測の様子を映像として残しておこう

と、映画撮影をする準備をしていたときである。写真 3、4 が今回収蔵した CCD カメラで、写真 2 の望遠鏡焦点部に装着されているデュアーである。



写真 3

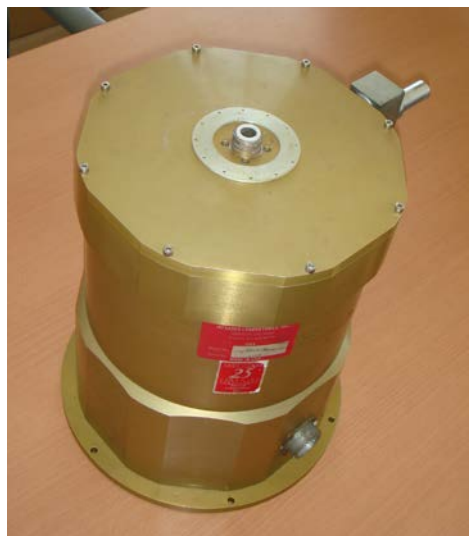


写真 4

このデュアーには、CCD が装着されており、購入時の価格は 500 万円であったと聞いている。今では観測に CCD が使われるのは当たり前であるが、1980 年代中頃は非常に高価であった（写真 5、6）。

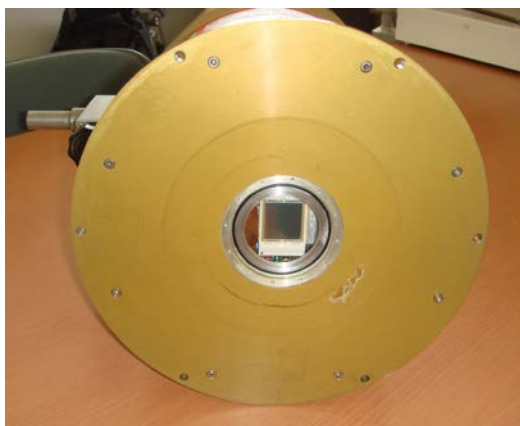


写真 5

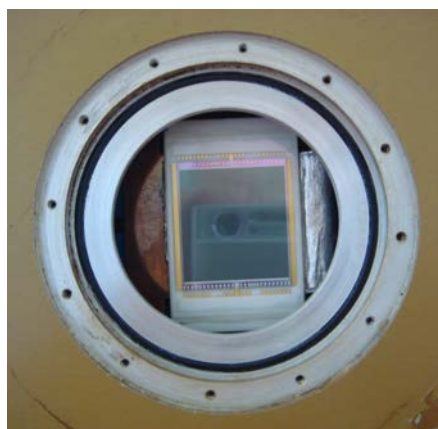


写真 6

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp